

平成 19 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社フォーバル
 代表者名 代表取締役会長兼社長 大久保 秀夫
 (J A S D A Q ・ コード番号 8 2 7 5)
 問合せ先 取締役管理本部長 加藤 康二
 電 話 0 3 - 3 4 9 8 - 1 5 4 1

特別損失の発生と業績予想修正（平成 20 年 3 月期中間期及び通期、個別及び連結） に関するお知らせ

当社が保有する投資有価証券のうち、時価が著しく下落したと判断されるものに対し投資有価証券評価損を計上する必要が生じました。また、この結果及び当社の直近の状況ならびに当社子会社、関連会社の状況を踏まえ、平成 19 年 5 月 18 日決算短信発表時に公表した単体業績見通し及び平成 19 年 6 月 27 日に公表した連結業績見通しをそれぞれ修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生について

当社が保有する投資有価証券（平成 19 年 9 月末時点約 98 億）等のうち投資先の財務状況等により時価が下落したと判断されるものに対し平成 20 年 3 月期中間期個別及び連結決算において投資損失引当金 475 百万円（うち子会社株式対象のものが 1 億円）を計上する予定です。

2. 平成 20 年 3 月期業績予想（個別・連結）の修正について（表中金額単位：百万円）

（ 1 ）中間期個別業績予想の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	7,000	40	60	300
今回発表予想（B）	6,600	320	180	200
増減額（B-A）	400	280	240	500
増減率（%）	5.7	-	-	-
（参考）前期（平成 18 年 9 月）実績	6,666	704	490	623

（ 2 ）中間期連結業績予想の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	15,300	100	200	0
今回発表予想（B）	15,500	500	630	600
増減額（B-A）	200	400	430	600
増減率（%）	1.3	-	-	-
（参考）前期（平成 18 年 9 月）実績	13,067	1,121	1,177	1,119

(3) 通期個別業績予想の修正(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	15,000	300	550	700
今回発表予想(B)	14,000	150	100	0
増減額(B-A)	1,000	450	450	700
増減率(%)	6.7	-	81.8	-
(参考)前期(平成18年9月)実績	13,057	1,425	1,085	1,004

(4) 通期連結業績予想の修正(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	36,000	800	800	800
今回発表予想(B)	35,000	300	600	800
増減額(B-A)	1,000	1,100	1,400	1,600
増減率(%)	2.8	-	-	-
(参考)前期(平成18年9月)実績	26,216	1,918	2,010	1,387

(5) 業績予想修正の理由について

個別

売上につきまして9月中間期では複写機等は順調に推移したものの電話機の売上が予想に対して4億程度減少し、この結果70億の予想に対し66億の売上となる見通しです。通期は当初予想150億に対し電話機を中心に減少する見通しとなりましたので140億に修正いたします。

営業利益につきまして9月中間期では電話機の売上減少による粗利減少と工事を伴う売上予定の減少により工事関連の固定費負担が増加し計画を下回ることとなりました。通期は同様の理由で利益が減少する見通しとなりましたので150百万円の損失に修正いたします。

当期純利益は営業利益の減少に加えて先に記載したように9月中間期におきまして特別損失が発生しましたので9月中間期を2億の損失に通期を0にそれぞれ修正いたします。

連結

売上につきまして9月中間期は前述の電話機等の売上見通しが減少したものの、期中に子会社化した株式会社リンクアップの携帯電話販売事業が好調であったこと、人材派遣関連の子会社2社、株式会社フォーバルテレコム、株式会社フォーバルクリエイティブの上場2社が順調に推移しました。この結果売上高は155億となる見通しです。

通期は携帯電話販売、人材派遣事業は順調に推移するものと予想しておりますがフォーバルが扱う電話機が前述のように当初予想を下回る見込みであり更に株式会社フォーバルクリエイティブの大手企業向けネットワークセキュリティ商品の売上が当初の予想

を下回る見込みであり 350 億に修正いたします。

営業利益・経常利益につきまして 9 月中間期はフォーバルの減少に加えて米国子会社の収益改善が予定に対し遅れていること、持分法投資損失が予定を上回ったことにより当初予定よりも損失が増加する見通しで営業損失 5 億、経常損失 630 百万円に修正いたします。

通期ではフォーバルが修正したことに加えて、株式会社フォーバルクリエイティブが前述の売上減少により利益減となる見通しであり、更に米国子会社の収益改善が予定に対し遅れていること持分法投資損失が当初見通しより増加することにより損失が増加し営業損失 3 億、経常損失 6 億に修正いたします。

当期純利益につきまして 9 月中間期は営業利益・経常利益の減少理由に加えフォーバルにおける投資損失引当を計上したこと及び株式会社フォーバルクリエイティブにおいて「ソフトウェア取引の収益の会計処理に関する実務上の取り扱い」の適用に伴い過年度計上の売上を修正し特別損失として計上したことなどにより当初見通しに対し大きく損失となり 6 億の損失となりました。

通期におきましてもこの影響で当初見通しを修正し 8 億の当期純損失といたします。

尚、本日当社の子会社株式会社フォーバルクリエイティブ(別添参照) 持分法適用関連会社株式会社フリードが業績の修正を行っており、上記修正にはその内容を折り込んでおります。

以 上

平成 19 年 11 月 9 日

各位

会 社 名 株式会社フォーバルクリエイティブ
 代表社名 代表取締役社長 金 住治
 (コード:2724、大証ヘラクレス G)
 問合せ先 取締役 浦野 義朗
 (TEL:03-5797-0040)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は平成 20 年 3 月期中間期において特別損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。また、この特別損失の計上および最近の業績動向を踏まえ、平成 19 年 5 月 18 日の決算発表時に公表した平成 20 年 3 月期の中間期ならびに通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

過年度損益修正損の計上 128 百万円

説明:

保守売上高については、「ソフトウェア取引の収益の会計処理に関する実務上の取り扱い(実務対応報告第 17 号 企業会計基準委員会 平成 18 年 3 月 30 日)」が公表されたことにより、本年 4 月以降開始する事業年度から適用するという指針に基づき、当期より提供期間にわたる契約の履行に応じて収益認識を行うよう変更することとしました。この変更により、過年度に計上した保守売上の中で今期以降に収益認識を行うものを過年度損益修正損として一括して当中間期に特別損失に計上しました。なお、過年度に計上した保守売上高で今期以降に収益認識を行うものについては当中間期を含めて今後、期間に応じて収益を計上してまいります。

2. 平成 20 年 3 月期中間期業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位百万円)

(連結)	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	970	65	65	63
今回発表予想(B)	1,080	23	13	150
増減額(B-A)	110	42	52	87
増減率(%)	11.3%	64.6%	80.0%	138.1%
(参考)前期実績	1,224	40	36	38

(個別)	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	800	70	70	70
今回発表予想(B)	910	57	47	170
増減額(B-A)	110	13	23	100
増減率(%)	13.8%	18.6%	32.9%	142.9%
(参考)前期実績	1,079	34	30	32

3. 平成 20 年 3 月期通期業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位百万円)

(連結)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	2,550	30	30	26
今回発表予想(B)	2,190	100	90	250
増減額(B-A)	360	130	120	276
増減率(%)	14.1%			
(参考)前期実績	2,422	62	55	194

(個別)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	2,200	20	20	20
今回発表予想(B)	1,830	140	130	270
増減額(B-A)	370	160	150	290
増減率(%)	16.8%			
(参考)前期実績	2,107	76	68	207

4. 修正の理由

(1)中間期の業績予想

中小企業向けのセキュリティ商品は順調に推移していますが、大手企業向けセキュリティ商品が需要一巡化、競争の激化の影響で当初予想を下回る結果となりました。また、新規ビジネスとしてのサービスビジネスについてはサービスメニューのラインアップを強化した結果、昨年度より大幅に収益を伸ばしていますが、一部顧客での導入が遅れるなどにより、現時点では当初想定した収益を上げるに至っておりません。なお、過年度計上の保守売上のうち当中間期に収益認識を行うものについて売上・利益の計上を行っております。

子会社が行っているネットワークエンジニアの人材派遣ビジネスは、堅調に推移しており、連結での収益向上に貢献しています。

(2)通期の業績予想

上期に引き続き、大手企業向けのセキュリティ商品の苦戦が見込まれ、年度末需要も前期に比較して多大な期待は出来ない状況にあります。中小企業向けのセキュリティ商品、サービスビジネスについては下期も順調に推移すると見込んでおり、新規商材の投入を加えて更なる収益の改善を図ってまいります。また、残念ながら大手企業向けのセキュリティ商品の落ち込みをカバーするには至らないと想定しています。また、来期以降の固定費削減に向けて積極的なコスト削減およびリストラチャリングを計画しており、そのための損失計上を当期中に予定しています。

【注記事項】

上記の業績予想は、当社が現時点で合理的と判断した一定の前提に基づき算定しておりますが、実際の業績は予想と異なることがあり得ます。

以上